

Ⅰ 研究主題

主体的に考え、学び合う子の育成

～確かな「見取り」と効果的な「手立て」による、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

2 主題設定の理由

(1) 研究の背景と目指す姿

本校は「笑顔あふれる向本折っ子の育成」を掲げ、「主体的に考え、学び合う子の育成」を主題に授業改善を推進してきた。単元構想シートの活用により、児童が学習の見通しをもち、自ら学習形態や教具を選択する姿が見られるようになったことは大きな成果である。一方で昨年度の課題として、「一人一人の変容を見取る評価の不足」や、交流が「表面的な感想の交換」に留まる点が浮き彫りとなった。全児童の可能性を引き出すには、個別最適な学びを孤立させず、協働的な学びと一体的に充実させることが不可欠である。

(2) これまでの研究の成果と課題(R7年度の振り返り)

昨年度は国語科を中心に「『～たい』が生まれる子どもが主役の授業」を目指し、単元構想シートを活用した授業デザインに取り組んできた。

- 成果：単元のゴールや学習計画を児童と共有することで、児童が学習の見通しをもち、ICTの他者参照機能を活用して互いの考えに触れながら自分の考えを形成する姿が見られるようになった。また、振り返りにおいて、感想だけでなく学んだ内容や考えの変容を言語化しようとする意識が高まった。
- 課題：一方で、単元を通した児童一人一人の変容や力の定着を検証する「見取り」が十分ではなかった。また、交流の場面において、活発であっても表面的な感想の交換にとどまるケースがあり、児童の思考を揺さぶり、本質的な問いへと誘う「問い返し」や、個々のつまづきに応じた「手立て」の充実が求められている。

(3) 本研究主題設定のねらい

本研究では、確かな「見取り」と「手立て」を軸に、以下の3本の柱で研究を推進する。

① 基準を明確にした確かな「見取り」

単元のゴールにおける児童の姿(B基準:おおむね満足できる状況)を、子供の言葉で具体的に言語化し教員間で共有する。授業ではICTの書き込みや進捗状況から、児童の思考の変容を細やかに把握し、一人一人の「学びの足跡」を確かな目で見取る。

② 「効果的な手立て」の充実

見取りに基づき、児童が目的意識をもって追究し続けられるよう、自ら選択できる**「ヒント」や資料等の足場かけを充実させる。特に、思考を揺さぶり本質的な問いへと誘う「問い返し」**の具体例を蓄積・共有し、児童が粘り強く思考し、自分の考えを再構築できる環境を整える。

③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

「個の考えの形成」を土台に、他者の視点に触れて考えを広げ深める「協働的な学び」へと繋ぐ。単なる情報の共有に終わらず、対話を通じて考えを再構築する「個と協働の往還」を意図的にデザインすることで、誰一人取り残さない質の高い学びの実現を目指す。

本校教職員が「子供をみる目」と「授業をみる目」を磨き、デジタル学習基盤を効果的に活用した授業改善に挑み続けることで、子供たちが主体的に学びを楽しみ、力を付けていく授業を創造していく。

令和8年度 小松市立向本折小学校 研究構想図

学校の教育目標と目指す姿

学校教育目標：「笑顔あふれる向本折っ子の育成」

目指す児童像 「つよく やさしく かしこい子」

- つよさ 真の強さをもった子に ○ やさしさ すべての人にやさしい子に
- かしこさ みんなでとことん考える子に

～一人一人が主体性を発揮する学校づくり～



研究主題

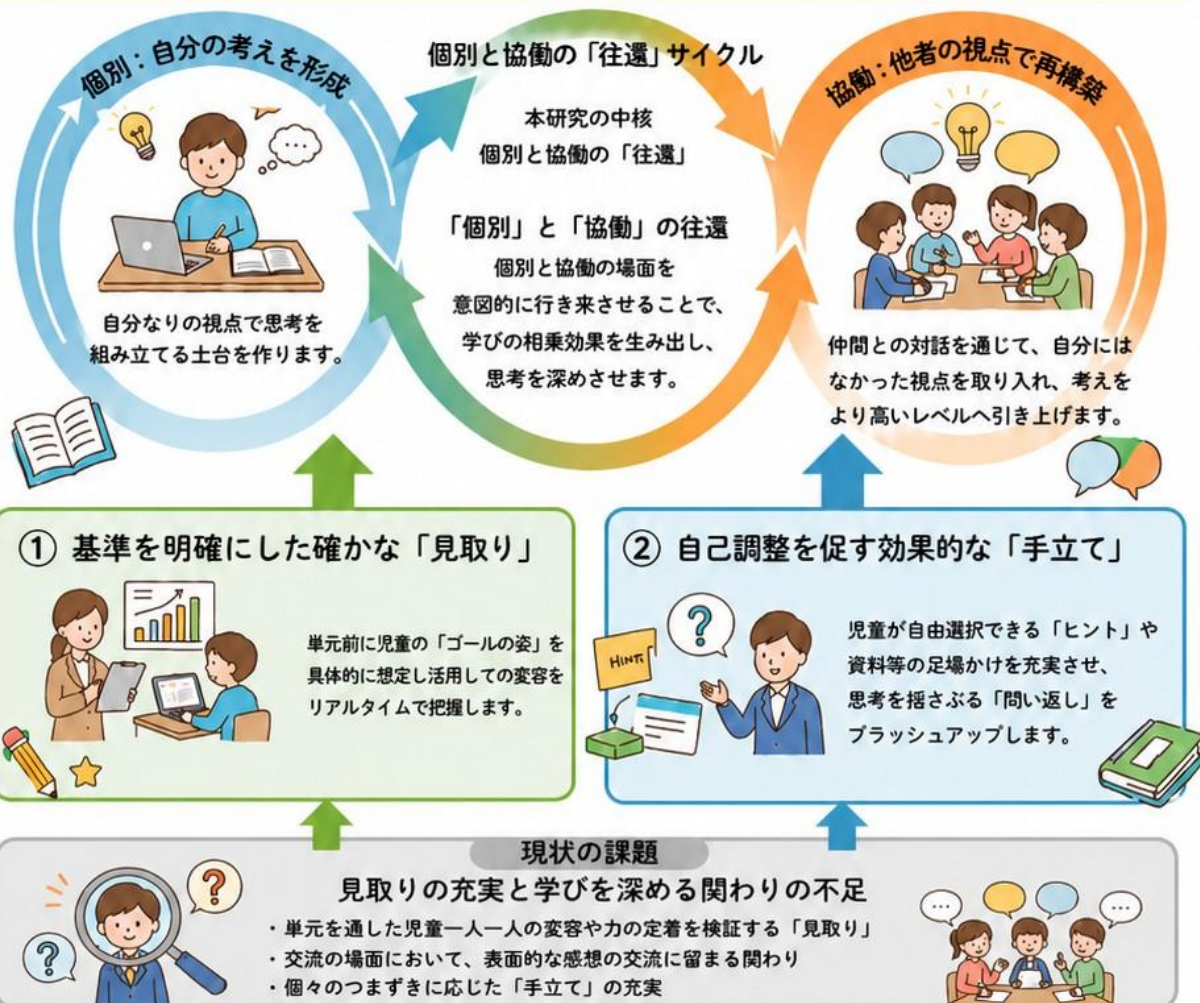
主体的に考え、学び合う子の育成

～確かな「見取り」と効果的な「手立て」による、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～



③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

誰一人取り残さない学びのため、実態に応じた学習課題の設定や
学習用端末の効果的な活用を進める。



4 研究の内容と方法

本主題の具現化に向け、以下の3点を重点として研究を推進する。

(1) 基準を明確にした「確かな見取り」

- **「ゴールの姿」の言語化：**単元構想段階で、付けたい力を発揮している児童の姿（B 基準：おおむね満足できる状況）を具体的に想定し、指導案に明記する。
- **リアルタイムの見取り：**ICT の他者参照機能や児童の書き込み・を活用し、児童の思考の変容や進捗を授業中に把握し、適切な介入につなげる。

見取りの視点

○1時間の授業を通しての児童の考えの変化

○児童の様子

○ねらいの達成状況

・「見取る力」や「見取りの視点の質」の向上を図るため、見取りの対象児童を6名設定する。教職員の半数が、この対象児童を詳細に見取る。もう半数は、学級全体の児童を見取る。

(2) 「効果的な手立て」の充実

- **足場かけ：**児童が自ら選択できる「ヒント」を充実させ、見通しをもって学べる環境を整える。
- **問い返しのブラッシュアップ：**児童の思考を揺さぶり、本質的な問いへの粘り強い思考を促す「問い返し」の具体例を事前に用意する。
- **個別最適な支援の保障：**外国籍児童への翻訳・読み上げ機能の活用や、実態に応じた学習課題の設定により、誰一人取り残さない学びを目指す。

(3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- **個別と協働の往還：**自分の考えを形成する「個別」の時間と、他者の視点に触れて考えを広げる「協働」の場面を意図的に往還させ、学びの相乗効果を狙う。
- **交流の質の転換：**単なる情報の共有ではなく、他者の意見を聞き自分の考えを再構築する「学び合い」の質を高める。